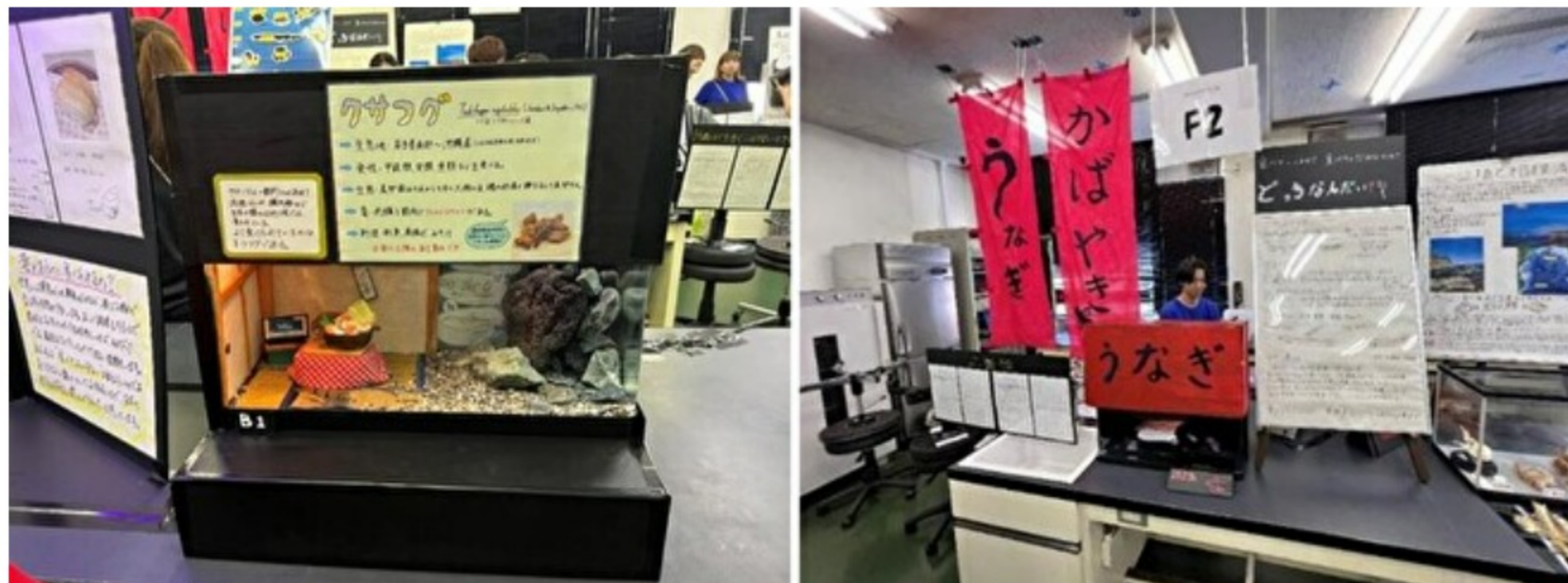


新着情報

見どころ 2024年11月27日

12月14日（土）、12月15日（日） 「海洋生物展示学実習」成果物公開展示



当館は、日本大学生物資源科学部海洋生物学科の実践的な展示を学ぶ一連のカリキュラムに、講師や指導・評価者として協力しています。このカリキュラムの最終成果となる「海洋生物展示学実習」で、12グループ中、優秀な評価をうけた2グループの展示作品を12月14日（土）、12月15日（日）の2日間、なぎさの体験学習館で一般公開いたします。

将来水族館や博物館での活躍を目指す大学生たちが手掛けた展示作品をぜひご覧ください。

[展示日時]

2024年12月14日（土）、12月15日（日） 2日間

10:00～17:00

[場所]

なぎさの体験学習館 2階（なぎさの体験学習館は入館無料）

[展示内容]

行き交うフグ！河豚！

◆展示目的

フグの食文化と危険性の両面を伝える。

◆展示目標

観覧者がフグの食文化を知り、同時に危険性を知ることによって日本の食文化への関心を高める。それにより日本食や魚を楽しみながら食べてもらう。

◆主な展示物

クサフグ、食卓風景の模型、クサフグの生息環境

食べていいのか食べちゃだめなのかどっちなんだい！？

◆展示目的

日本と関わり深い魚、ニホンウナギについて知ってもらう。

◆展示目標

- ・観覧者が日本と関わり深い魚についての知識を身につける。
- ・ニホンウナギの保全について考え、観覧者同士で意見交換をし、その生息環境へ足を運ぶ。

◆主な展示物

ニホンウナギ、ウナギ料理の模型、パネル、うなぎ食文化に関わる仕掛けなど

X ポスト

f シェアする 15

B! 0

LINEで送る

< 前の記事 記事一覧 次の記事 >

RSS



えのすいについて よくある質問 採用情報 リンク サイトマップ サイトポリシー プライバシーポリシー お問い合わせ



キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

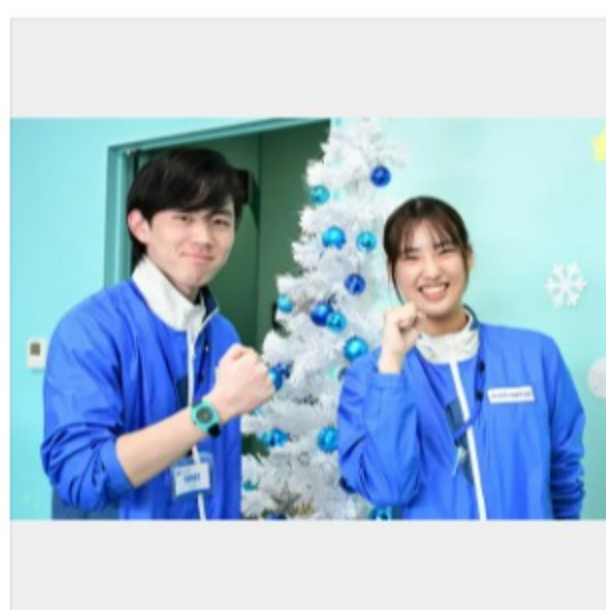
地域

新江ノ島水族館で「海洋生物展示学実習」 日大生が成果物公開展示

12/10(火) 15:37 配信



みんなの経済新聞
LOCAL NEWS NETWORK



なぎさの体験学習館で展示前研修に参加した日本大学生物資源科学部海洋生物学科の鈴木唯生さん（左）と福富春佳さん（右）

将来、水族館や博物館での活躍を目指す大学生が手がけた「海洋生物展示学実習」の成果物が12月14日・15日の2日間、新江ノ島水族館（藤沢市片瀬海岸2）のなぎさの体験学習館で一般公開される。（湘南経済新聞）

【写真】なぎさの体験学習館で研修に参加する福富さんと鈴木さん

同館は、日本大学生物資源科学部海洋生物学科（亀井野）の実践的な展示を学ぶ一連のカリキュラムに毎年講師や指導・評価者として協力しており、同展では、このカリキュラムの最終成果となる「海洋生物展示学実習」で、総合結果1位と2位の評価を受けた2グループの作品を展示する。展示作品は「行き交うフグ！河豚（ふぐ）！」と「食べていいのか食べちゃだめなのかどっちなんだい！？」の2作品。

同館で協力しているカリキュラムは、2017（平成29）年に開講した「水族館論」と、昨年度より新たに加わった「海洋生物展示学」「海洋生物展示学実習」。展示学実習では3～4人でグループになり、計12グループがそれぞれ自由な発想で展示を考え、企画発表・承認を受けた後、定められた予算内で展示を制作。制作した展示は8月に同大オープンキャンパスで公開し、来場者と教員、同館スタッフによる評価を受けた。

展示公開前には、各グループが2日間にわたり同館のなぎさの体験学習館で、「体験」を通じて伝える仕掛けを学ぶ研修に参加した。同研修に参加した同大2年の鈴木さんと福富さんは同展で「行き交うフグ！河豚！」を制作。「毒があるということで恐れるのではなく、正しく知って、安全に食べられるということを伝えたい」と話す。「日本食の文化が薄れてきている中で、毒というキャッチーなフレーズからフグに興味をもち、日本食にも興味を持ってもらいたい」とも。

同展の担当で展示飼育部展示飼育チームマネジャーの鈴木良博さんは「短い期間だが、この展示には生き物について新たな視点や感動を届けたい、という学生たちの純粋な思いが詰まっている。未来の展示づくりを担う若い力が情熱を注いで形にしたものを、ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話す。

みんなの経済新聞ネットワーク

記事に関する報告

この記事はいかがでしたか？
リアクションで支援しよう

3
学びがある

2
わかりやすい

0
新しい視点

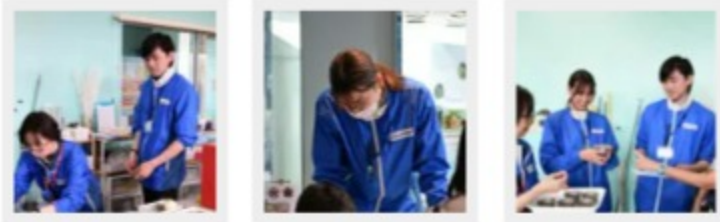
見る・遊ぶ 学ぶ・知る

2024.12.10

新江ノ島水族館で「海洋生物展示学実習」 日大生が 成果物公開展示



なぎさの体験学習館で展示前研修に参加した日本大学生物資源科学部海洋生物学科の鈴木唯生さん（左）と福富春佳さん（右）



13



0

将来、水族館や博物館での活躍を目指す大学生が手がけた「海洋生物展示学実習」の成果物が12月14日・15日の2日間、新江ノ島水族館（藤沢市片瀬海岸2）のなぎさの体験学習館で一般公開される。

📷 なぎさの体験学習館で研修に参加する福富さんと鈴木さん

同館は、日本大学生物資源科学部海洋生物学科（亀井野）の実践的な展示を学ぶ一連のカリキュラムに毎年講師や指導・評価者として協力しており、同展では、このカリキュラムの最終成果となる「海洋生物展示学実習」で、総合結果1位と2位の評価を受けた2グループの作品を展示する。展示作品は「行き交うフグ！河豚（ふぐ）！」と「食べていいのか食べちゃだめなのかどっちなんだい！？」の2作品。

同館で協力しているカリキュラムは、2017（平成29）年に開講した「水族館論」と、昨年度より新たに加わった「海洋生物展示学」「海洋生物展示学実習」。展示学実習では3～4人でグループになり、計12グループがそれぞれ自由な発想で展示を考え、企画発表・承認を受けた後、定められた予算内で展示を制作。制作した展示は8月に同大オープンキャンパスで公開し、来場者と教員、同館スタッフによる評価を受けた。

展示公開前には、各グループが2日間にわたり同館のなぎさの体験学習館で、「体験」を通じて伝える仕掛けを学ぶ研修に参加した。同研修に参加した同大2年の鈴木さんと福富さんは同展で「行き交うフグ！河豚！」を制作。「毒があるということで恐れるのではなく、正しく知って、安全に食べられるということを伝えたい」と話す。「日本食の文化が薄れてきている中で、毒というキャッチーなフレーズからフグに興味をもち、日本食にも興味を持ってもらいたい」とも。

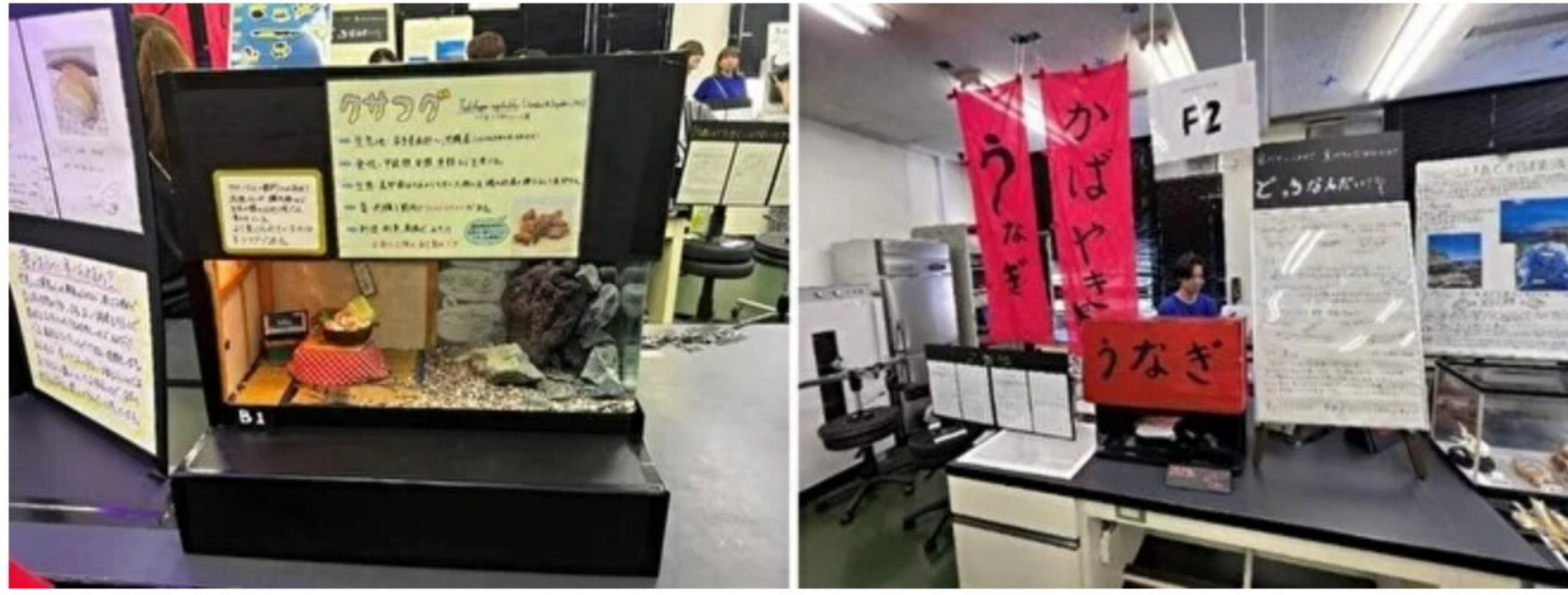
同展の担当で展示飼育部展示飼育チームマネジャーの鈴木良博さんは「短い期間だが、この展示には生き物について新たな視点や感動を届けたい、という学生たちの純粋な思いが詰まっている。未来の展示づくりを担う若い力が情熱を注いで形にしたものを、ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話す。

本日開催 12/13 今週開催 12/09~12/15 今月開催 来月開催 詳しく探す

藤沢市・ふじさわ、藤沢、藤沢情報、湘南情報、地域情報サイト、地域ポータルサイト、地域ニュース、地域トピックス、ひと、こと、もの > 催事・イベント > 日本大学×新江ノ島水族館・なぎさの体験学習館「海洋生物展示学実習」成果物公開展示 12月14日(土)、15日(日)開催

片瀬江ノ島 お店の催し

日本大学×新江ノ島水族館・なぎさの体験学習館「海洋生物展示学実習」成果物公開展示 12月14日(土)、15日(日)開催



新江ノ島水族館は、藤沢市内の日本大学生物資源科学部海洋生物学科の実践的な展示を学ぶ一連のカリキュラムに講師や指導・評価者として協力しています。このカリキュラムの最終成果となる「海洋生物展示学実習」で、優秀な評価を受けた2グループの展示作品が、12月14日(土)、15日(日)の2日間にわたって、なぎさの体験学習館で一般公開されます。

新江ノ島水族館が協力しているカリキュラムは2017年に開講し、毎年講師として協力している「水族館論」と、2023年度より新たに加わった「海洋生物展示学」「海洋生物展示学実習」の2つの授業。「海洋生物展示学」は2023年9月から2024年1月にかけて、「海洋生物展示学実習」は2024年7月と8月に実施されています。

「海洋生物展示学実習」は、学生さんが3~4名のグループになり、全12グループがそれぞれ自由な発想で展示を考えます。そして、企画を発表し、承認をうけたのちに定められた予算内で展示を制作するという学習内容となっています。

制作された展示は、8月に大学のオープンキャンパスで公開され、来場者、先生方、そして新江ノ島水族館のスタッフの皆さんによって評価されました。

今回、なぎさの体験学習館で展示されるのは、総合結果1位、2位となった2グループの作品です。将来、水族館や博物館で活躍したいと願う大学生が手がけた作品をぜひご覧ください。

- 展示タイトル「行き交うフグ! 河豚!」
展示目的: フグの食文化と危険性の両面を伝える。
展示目標: 観覧者がフグの食文化を知り、同時に危険性を知ることで日本の食文化への関心を高める。
主な展示物: クサフグ、食卓風景の模型、クサフグの生息環境
- 展示タイトル「食べていいのか食べちゃだめなのかどっちなんだい!？」
展示目的: 日本と関わり深い魚、二ホンウナギについて知ってもらう。
展示目標: 観覧者が日本と関わり深い魚についての知識を身につける。
主な展示物: 二ホンウナギ、ウナギ料理の模型、パネル、うなぎ食文化に関わる仕掛けなど。

Table with 2 columns: 期間 (2024.12.14~12.15), 時間 (10:00~17:00), 場所 (新江ノ島水族館 なぎさの体験学習館 2階), 住所 (〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸2-19-1), 参加費 (無料)

★ お気に入りに追加

MAP 開催場所



大きな地図を見る

Contact and related site information table.

シェアする (Facebook, Twitter icons)

PERIPHERAL INFORMATION 周辺施設

- 0.00 km 新江ノ島水族館
0.23 km 大安興業株式会社
0.33 km (公社) 藤沢市観光協会・藤沢市観光センター
0.58 km 湘南ライセンス
0.58 km 江の島ラーメン花みずき
0.58 km スタジオカノン・バイ・ザ・シー
0.68 km 江の島アイランドスパ
0.70 km むくなし歯科医院
0.82 km 江島神社
0.94 km サムエル・コッキング苑

RANKING 催事・イベント

- 1 魔笛 2024.12.07~12.15
2 テラスモール湘南が約30万球の電飾で青の世界に染まる。約20mの...
3 江の島を彩る光と色の祭典「湘南の宝石 2024-2025」始まりま...
4 学割 2024.11.23~2025.03.31
5 新江ノ島水族館でクリスマスを楽しもう! 「ENOSUI CHRIST...
6 「えのすい」ワインナイト ~海の中でほろよいクリスマス~ 12月...
7 日本大学×新江ノ島水族館・なぎさの体験学習館「海洋生物展示学実習」...
8 11月23日(土) 合格祈願列車サクラサクトレイン運行開始。合格祈願...
9 【6.1募集開始】第15回 湘南藤沢市民マラソン2025
10 遊行寺で初のライトアップイベント「遊行の光」を開催します!

新江ノ島水族館で「海洋生物展示学実習」 日大生が成果物公開展示

みんなの経済新聞ネットワーク 12/10(火) 15:37

将来、水族館や博物館での活躍を目指す大学生が手がけた「海洋生物展示学実習」の成果物が12月14日・15日の2日間、新江ノ島水族館（藤沢市片瀬海岸2）のなぎさの体験学習館で一般公開される。（湘南経済新聞）

なぎさの体験学習館で研修に参加する福富さんと鈴木さん



なぎさの体験学習館で展示前研修に参加した日本大学生物資源科学部海洋生物学科の鈴木唯生さん（左）と福富春佳さん（右）

同館は、日本大学生物資源科学部海洋生物学科（亀井野）の実践的な展示を学ぶ一連のカリキュラムに毎年講師や指導・評価者として協力しており、同展では、このカリキュラムの最終成果となる「海洋生物展示学実習」で、総合結果1位と2位の評価を受けた2グループの作品を展示する。展示作品は「行き交うフグ！河豚（ふぐ）！」と「食べていいのか食べちゃダメなのかどっちなんだい！？」の2作品。

同館で協力しているカリキュラムは、2017（平成29）年に開講した「水族館論」と、昨年度より新たに加わった「海洋生物展示学」「海洋生物展示学実習」。展示学実習では3～4人でグループになり、計12グループがそれぞれ自由な発想で展示を考え、企画発表・承認を受けた後、定められた予算内で展示を制作。制作した展示は8月に同大オープンキャンパスで公開し、来場者と教員、同館スタッフによる評価を受けた。

展示公開前には、各グループが2日間にわたり同館のなぎさの体験学習館で、「体験」を通じて伝える仕掛けを学ぶ研修に参加した。同研修に参加した同大2年の鈴木さんと福富さんは同展で「行き交うフグ！河豚！」を制作。「毒があるということで恐れるのではなく、正しく知って、安全に食べられるということを伝えたい」と話す。「日本食の文化が薄れてきている中で、毒というキャッチーなフレーズからフグに興味をもち、日本食にも興味を持ってもらいたい」とも。

同展の担当で展示飼育部展示飼育チームマネジャーの鈴木良博さんは「短い期間だが、この展示には生き物について新たな視点や感動を届けたい、という学生たちの純粋な思いが詰まっている。未来の展示づくりを担う若い力が情熱を注いで形にしたものを、ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話す。

博物館



水族館



新江ノ島水族館



日本大学



神奈川県鎌倉市



神奈川県茅ヶ崎市



神奈川県大磯町

